

令和5年度 イチオシ!の ICT 活用方法

教育委員会

多古町教育委員会

1. 小学校の学習における活用方法 (学校名: 久賀小学校)

「デジタルフラッシュカード (単語カード)」

(4年: 社会科)

メリット

- ・既存のフラッシュカードを校内で共有・活用できる
⇒フラッシュカード作成の時間を削減でき、教材研究の時間を確保できる。
- ・毎時間のルーティンとして取り入れられる
⇒アイスブレイクとして子供たちが楽しく取り組める
- ・児童用アカウントの活用
⇒児童が家庭での自主学習に利用でき、個別最適な学習が可能となる。



2. 小学校の学習における活用方法 (学校名: 多古第一小学校)

「ゲーム・スマホのトラブル対策出前講座」(大手ゲームメーカー)

(6年: 特別の教科 道徳/情報モラル)

メリット

- ・小学生: トラブルに巻き込まれないための知識の取得
⇒長時間プレイや課金トラブルを防ぐための知識が学べる。
- ・教職員: 時間や費用を掛けずに勉強会を実施
⇒完全無料で、ゲームメーカーからトラブル事例や機能制限についてオンラインで学べる。
- ・保護者: 子どものゲームに関する理解
⇒約束づくりのポイントや利用時間の考え方が学べる。



3. 小学校の学習における活用方法（学校名：多古第一小学校）

「夏休みの科学工夫作品の発表」（4年：総合的な学習の時間）

メリット

- ・子どもが ICT 機器（web カメラ、電子黒板）を使って発表することができる
⇒発表意欲や視聴している児童の作品への興味や関心が高まる。
⇒発表者一人一人が主役で、自分の作品を自分の言葉で表現することができる。
⇒質疑応答を行うことで、対話的な活動につながる。
⇒小さな部分を電子黒板に拡大表示することで、作品のアピールポイント、工夫や仕組み、結果などを共有することができ、新しい知識を得たり、生活に活かしたりすることができる。



4. 小学校の学習における活用方法（学校名：多古第一小学校）

「タブレットと学習支援ソフトを使った情報の共有」（3年：算数科/大きい数のかけ算のしかたを考えよう）

メリット

- ・タブレットを使い、子どもの考えを図や式、言葉を使って表現できるようになる
⇒タイピングやタブレットのソフトやアプリケーションの使用法の取得や表現方法・技術の向上が見込める。
- ・広げ深める場面で、学習支援ソフトを使い思考の共有
⇒新しい考えや、他の考え方に気付いたり、自分で考えることに時間を要する児童の支援にもつながる
- ・全体表示と個別表示を電子黒板で使い分ける
⇒全体の進捗を把握でき、参考になる考え方やヒント、模範解答など、即時に電子黒板に拡大表示して教員が解説・説明したり児童の主体的な発表を促すことができる。



5. 小学校の学習における活用方法（学校名：中村小学校）

「生活科の観察画像の保存と共有」

（1年：生活科）

メリット

- ・電子黒板で共有すると画像を比べやすい。
⇒（よりよい）撮影の視点を増やすことができる。
⇒植物の成長の様子の違いを比較することができる。
- ・気づきの類似や差異を確認しやすい。
⇒共通の気づきがあることで自信がつく。
⇒友達の発見を見て、新たな学びや意欲につなげることができる。
- ・正確な記録を残しやすい。
⇒タブレット端末に保存し、時系列で成長記録を見返すことができる。



6. 中学校の学習における活用方法（学校名：多古中学校）

「単語カードのように ICT 機器を活用しよう。」（3年：外国語科）

重要な語句を覚えようとした場合、単語カードに重要語句を書き覚えさせる。ICT を活用した場合、学習支援ソフトを活用し、教員が作った単語帳で暗記に役立てた。

メリット

- ・自主学習に取り組めることで、学習意欲が高まるだけでなく、個別最適な学習が可能となる。
- ・3年生になると休み時間も熱心に学習に取り組む生徒もいた。



7. 中学校の学習における活用方法（学校名：多古中学校）

「自分の動きを確認しよう。」（保健体育）

自分の動き（フォーム）を撮影し、後に見返して改善することに活用した。また、陸上競技種目でのタイム計測にも活用し、正確なタイム計測を行った。

メリット

- ・生徒が自由にタブレットを活用する事で、学習意欲も高まった。
- ・ICT 機器を活用することを目的とするのではなく、教員、生徒ともにどのような力が身につくのかを理解して学習に取り組むことができる。

